

M38b 情報通信研究機構太陽観測データベース

久保勇樹, 石橋弘光, 直井隆浩 (情報通信研究機構)

情報通信研究機構では、その前身である郵政省電波研究所が発足した 1950 年代から、当時の電波警報業務の一環として太陽の電波、光学観測を行っている。光学観測は 2000 年代後半に終了したが、電波観測については観測周波数帯域、観測場所の変更はあるものの、現在も続けられており、宇宙天気予報のための重要なデータとして利用されている。

これらの観測データは独自のフォーマットで保存されており、リクエストに応じて提供していたが、今回、平磯太陽電波観測 (HiRAS)、山川太陽電波観測 (YAMAGAWA)、及び平磯 H α 観測データ全てを標準 FITS フォーマット化し、情報通信研究機構太陽観測データベースとしてデータ公開を開始した。このデータベースには、<http://solarobs.nict.go.jp/> からアクセスでき FITS ファイルのダウンロードも可能となっている。

電波観測については、HiRAS (1996 年~2016 年)、YAMAGAWA (2016 年~) の、L, R 偏波の生データ及び、静穏太陽差引済みの L+R の強度データを公開している。H α については、1994 年~2006 年までの、H α 中心、及び H $\alpha \pm 0.7 \text{ \AA}$ の観測データを公開している。

本データベースは、現在は情報通信研究機構の観測データのみでの公開であるが、東北大学太陽電波観測データも同時に公開できるように開発されており、現在東北大学データも一元的に公開できるように準備を進めている最中である。